第６号様式（第７条関係）

政務活動費収支報告書

令和８年　３　月　３１　日

富士宮市議会議長　　佐野　和彦　様

会派名称　　明　　和

代表者氏名　　佐野　和也

令和　７　年度の政務活動費に係る収入及び支出について、下記のとおり報告します。

記



１　収　入

政務活動費　2,100,000　円

２　支　出

項　目	金　額（円）	主たる支出の内訳
資料作成費	0	
資料購入費	0	
会議費	407,135	・研修
事務費	0	
調査旅費	979,850	・先進地視察
その他経費	162,532	・貸与端末機議員負担金 ・視察先お土産代
合　計	1,549,517	

３　残　額　550,483　円

令和　7　年度　政務活動費現金出納簿

（単位:円）

月	日	項　目	内　　容	収入金額	支払金額	残　高
4	1	政務活動費	300,000円×7人	2,100,000		2,100,000
4	2	会議費	研修参加費 40,000円×7人＝280,000円 振込手数料550円		280,550	1,819,450
6	10	その他の経費	20,000円×7人(10ケ月分)		140,000	1,679,450
6	30	会議費	研修旅費 24,250円×4人分		97,000	1,582,450
6	30	会議費	研修参加費 7,300円×4人＝29,200円 振込手数料385円		29,585	1,552,865
7	15	調査旅費	視察旅費 99,650円×7人分		697,550	855,315
7	15	その他の経費	視察先お土産代 2,665円×4ヶ所		10,660	844,655
1	13	調査旅費	視察旅費 15,890円×6人分		95,340	749,315
1	13	調査旅費	視察旅費 16,790円×6人分		100,740	648,575
1	13	調査旅費	視察旅費 14,370円×6人分		86,220	562,355
1	13	その他の経費	視察先お土産代 2,968円×4ヶ所		11,872	550,483
			合　　計	2,100,000	1,549,517	550,483

収入金額	2,100,000 円
支出金額	1,549,517 円
差引残額	550,483 円

令和７年　４月　１日

令和７年度　明和　年間計画

1. 先進地視察（調査事項）
   ① 福祉一般（障害者福祉・高齢者福祉）
   ② ＳＤＧｓ（C02削減・プラスチックリサイクル）ごみ減量・省エネ支援事業等
   ③ 南海トラフ地震や富士山噴火に対する防災対策（防災・減災）
   ④ スポーツ（大会開催・合宿）強化（先進的自治体・教育振興事業）
   ⑤ 教育全般（不登校児童問題・学校統廃合）の取り組み強化
   ⑥ 最先端技術（生成ＡＩ等）の取り組み強化

2. 研修会
   ① 議員研修・セミナー等への積極的な参加
   ② 各種学会主催の講演会への参加
   ③ その他

3. 資料等購入
   ① 議員活動関連書籍等の購入
   ② 自治体情報月刊誌の購入

4. 事務用品購入
   ① 筆記用具等・文房具全般
   ② その他

明和（会派名）　　代表者　佐野　和也
　　会　計　平下　尚己

第５号様式（第４条関係）

政務活動費交付決定通知書

富行第８号の２
令和７年４月１日

明和
代表者　佐野　和也　様

富士宮市長　須藤秀忠 [redacted]

令和７年４月１日付けで申請のあった政務活動費の交付について、下記のとおり決定したので通知します。

記

令和７年度交付決定額　　２１０万円

NO. 0 1

収　入　伝　票

項　　目	政　務　活　動　費
金　　額	２，１００，０００円
内　　容	令和７年度　　政務活動費　（1人　３００、０００円） 会派所属議員　佐野和也・諏訪部孝敏・辻村岳瑠・赤池弘源 芦澤秀典・中野健太郎・平下尚己 ３００，０００円×７人＝~~２１，０００，０００~~ ２，１００，０００円
収　入　先	富士宮市長
収入年月日	令和７年　　４月　１日
摘　　要	

研　修　参　加　申　請　書

予算項目	会　議　費

起　案	令和　7　年　4　月　2　日	決　裁	7　年　4　月　2　日

	所　属	氏　名	備　考
1	明和	佐野　和也	
2	明和	諏訪部　孝敏	
3	明和	辻村　岳瑠	
4	明和	芦澤　秀典	
5	明和	赤池　弘源	
6	明和	平下　尚己	
7	明和	中野　健太郎	

研修市町村	研　修　先	研　修　名
富士宮市	富士宮市富士宮駅前交流センターきらら第2会議室	生成AI×プロファイリング活用研修 最先端技術をビジネスで使いこなす

研　修　目　的
生成ＡＩとプロファイリング技術をテーマとした研修「最先端技術をビジネスで使いこなす」に参加し、これからの業務効率化について研究するため

宿泊地	出発年月日	帰省年月日
	令和　7　年　4　月　7　日	令和　7　年　4　月　7　日

政　務　活　動　費　用

No.

支　出　伝　票

項　　目	会議費
金　　額	２８０，５５０円
内　　容	生成ＡＩ×プロファイリング活用研修受講のための参加費
目　　的	生成ＡＩとプロファイリング活用を全体テーマとした本研修に参加するため
支 出 先	株式会社Ｏｆｆｉｃｅ　ＲＥＶＯ
支払年月日	令和７年４月２日

その他特記事項（参加者・人数等）
佐野和也、諏訪部孝敏、辻村岳瑠、芦澤秀典、赤池弘源、平下尚己、中野健太郎の７人
１人４０，０００円×７人＝２８０，０００円
振込手数料　５５０円
合　計　２８０，５５０円

― 領収書等貼付欄 ―

別紙のとおり

NO.

別　紙

領収書等貼付用紙

項　目	会議費	内　容	生成AI×プロファイリング活用研修受講のための参加費

領収書等貼付欄

みずしんネットキャッシュサービス
お取扱明細票

富士宮信用金庫

お取扱日	お取扱店番・受付番号
07 04 02	[redacted]
お取引店	口座番号
[redacted]	

お取引金種	5000円	1000円	500円	100円	50円
お取引内容	お引出			10円	5円	1円
手数料	¥550	通帳頁	お取引金額		
時刻	09:04		¥280,000*		
説明コード		お取引後残高	[redacted]		

[redacted]
カ）オフイス レボ 様
ニカイハ メイワ様
[redacted]

領　収　証

No. [redacted]

富士宮市議会
会派 明和 様

2025年 4月 2日

★ ¥ 280,000－

但 セミナー参加費として

上記正に領収いたしました

内　訳 @4万×7名

税抜金額

消費税額等(　%)

株式会社Office REVO
代表取締役 中村 雅[redacted]
〒418-0056 静岡県富士宮市西町[redacted]
TEL 0544-26-65[redacted]

研修報告書

会派名	明　和

研　修 年　月　日	令和７年４月７日(月)
研　修　名	生成ＡＩ×プロファイリング活用研修 最先端技術をビジネスで使いこなす
参　加　者	佐野和也、諏訪部孝敏、辻村岳瑠、芦澤秀典 赤池弘源、平下尚己、中野健太郎
研修内容 (概要、特色、効果、課題等)	株式会社 Office REVO が主催し、富士宮市駅前交流センターきららで開催された「生成 AI×プロファイリング活用研修」に会派明和の全所属議員で参加。ChatGPT をはじめとする生成 AI やプロファイリング技術を活用することで、議会活動の効率化や政策提案の精度向上、コミュニケーションの質を高めることを目的とした。 生成 AI については、人間と同じように自然な文章を生成する ChatGPT のほか、プロンプトを入力するだけで高品質なプレゼン資料を自動生成する Gamma AI、テキストから動画を生成する AI モデル Sora の活用と連動について学んだ。 ChatGPT については、間のフィードバックによる強化学習を組み合わせることで、さらに高度な会話能力を持つことが実現しているため、日頃取り組んでいる政策について学習させることで、より精度の高い調査が可能になる。この調査を Gamma でプレゼン資料作成に生かし、Sora によるデザインでビジュアル化することによって多くの市民に政策を伝えやすいものとすることが可能となる。 研修では、こうした最先端技術によって議員活動の効率化で市民と行政の橋渡しをよりスマートにすることが可能になると伝えられた。 プロファイリングとは、行動心理学の分析手法で犯罪調査において、犯罪の性質や特徴から犯人の特徴を推論するために使われている。現在、ビジネスにも転用され、マーケティングの手法に応用されている。顧客の属性、行動履歴の傾向などを分析することで、顧客の特徴を推論し、顧客に対して適切な商品やサービスの情報を提供できるという。 本研修では、このプロファイリング技術を議員活動のコミュニケーションに応用することが目的とされており、自己分析や議会での説得力のある発言方法、SNS での効果的な発信テクニック、職員との円滑なコミュニケーションにつなげることを目指した。 特に、市民への発信テクニックについては、ターゲットを絞った SNS 投稿を生成 AI 活用で把握し、実践することで、訴えるべき政策を理解してもらえるような手法を学んだ。 また、生成 AI に頼り切らず、テクノロジーを活用しながらも人間らしさ、現場の感覚を失わない新しい時代の議員像を探るべきとされ、参加した議員同士でディスカッションをした。

支　出　伝　票

項　　目	その他の経費
金　　額	140,000 円
内　　容	貸与端末機議員負担金
目　　的	調査研究に必要なため
支 出 先	富士宮市
支払年月日	令和7 年　6 月　10 日
その他特記事項	２０，０００円×７人＝１４０，０００円
会派所属議員	佐野和也・諏訪部孝敏・辻村岳瑠・赤池弘源・芦澤秀典 中野健太郎・平下尚己

－ 領収書等貼付欄 －

別紙のとおり

NO.

別　紙

領収書等貼付用紙

項　目	その他の経費	内　容	貸与端末機議員負担金

領収書等貼付欄

令和　7　年度　　富士宮市

納入通知書兼領収書

納入者	富士宮市弓沢町１５０ 明和 代表者　佐野　和也 様					
会計	01　一般会計				予区	現年
款 21	項 04	目 04		節 04	細節 02	細々節 35
金額	140,000 円					
内容	貸与端末機議員負担金（明和）					
担当課	700500 市議会事務局					

納期限　令和　　年　　月　　日

富士宮市

富士宮市長

上記の金額を納入して下さい。

令和　７年　６月　１日

上記のとおり領収しました。	領収日付印
	7. 6. 10

納付場所
静岡銀行・スルガ銀行・清水銀行・静岡中央銀行
富士宮信用金庫・富士信用金庫・静岡県労働金庫
富士伊豆農業協同組合

研　修　参　加　申　請　書

予算項目	会　議　費

起　案	令和７年　５　月　１４　日	決　裁	令和７年　５　月　26　日

	所　属	氏　名	備　考
1	明和	佐野和也	
2		辻村岳瑠	
3		中野健太郎	
4		平下尚己	
5			
6			

研修市町村	研　修　先	研　修　名
滋賀県大津市	全国市町村国際文化研修所	令和７年度 世界情勢からわがまちの未来をつくる ～トップマネジャーの方のために～

研　修　目　的
日本を取り巻く世界情勢をしっかりと見極め、変化に負けない特色あるまちづくりをしていくために、各分野でご活躍の先生方をお招きしての研修会であり、国際情勢や地域のインバウンド政策、文化振興・発信などについて学び、グローバル化を戦略的に自治体施策に取り込み、地域の活性化に繋げていく方策について考えて、今後の議員に役立てる為。

宿　泊　地	出発年月日	帰省年月日
全国市町村国際文化研修所	令和　７　年　７　月　７　日	令和　７　年　７　月　８　日

政　務　活　動　費　用

支　出　伝　票

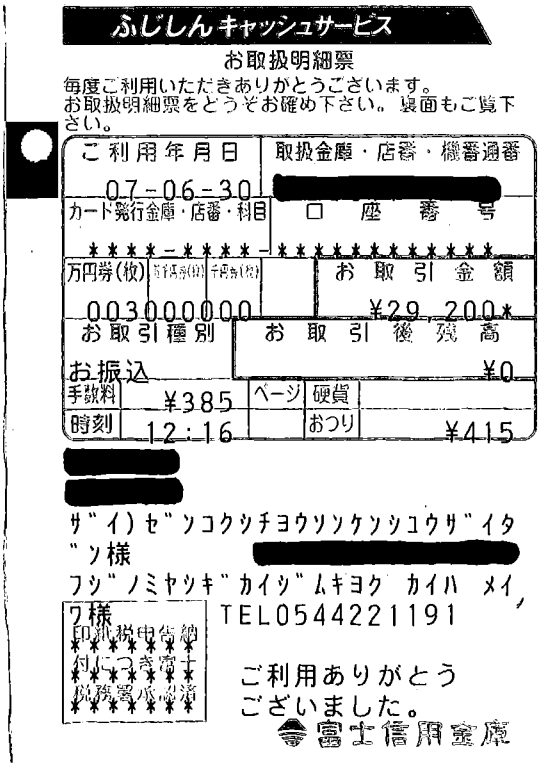
項　目	会議費
金　額	29,585 円
内　容	令和7年度 世界情勢からわがまちの未来をつくる ～トップマネジャーの方のために～　の参加費
目　的	日本を取り巻く世界情勢をしっかりと見極め、変化に負けない特色あるまちづくりをしていくために、各分野でご活躍の先生方をお招きしての研修会であり、国際情勢や地域のインバウンド政策、文化振興・発信などについて学び、グローバル化を戦略的に自治体施策に取り込み、地域の活性化に繋げていく方策について考えて、今後の議員に役立てる為。
支　出　先	全国市町村国際文化研修所
支払年月日	令和7　年　　6　月　　30　日

その他特記事項　　参加費　7，300円×4人＝29，200円　振込手数料　385円

参加者　　佐野和也・辻村岳瑠・中野健太郎・平下尚己

研修先　滋賀県大津市唐崎　全国市町村国際文化研修所
研修名　令和7年度世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネージャーの方のために～

－　領収書等貼付欄　－



ふじしんキャッシュサービス
お取扱明細票
毎度ご利用いただきありがとうございます。
お取扱明細票をどうぞお確め下さい。裏面もご覧下さい。

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番
07-06-30	[redacted]
カード発行金庫・店番・科目	口座番号
****-****	**********
万円券(枚) / 千円券(枚)	お取引金額
00300000	¥29,200*
お取引種別	お取引後残高
お振込	¥0
手数料 ¥385	ページ / 硬貨
時刻 12:16	おつり ¥415

[redacted]
ｻﾞｲ)ｾﾝｺｸｼﾁｮｳｿﾝｸｿｼｭｳｻﾞｲﾀﾞﾝ様 [redacted]
ﾌｼﾞﾉﾐﾔｼｷﾞｶｲｼﾞﾑｷｮｸ ｶｲﾁｮｳ ﾒｲﾜ様
TEL0544221191
印紙税申告納付しつき領収書不要
ご利用ありがとうございました。
富士信用金庫

支　出　伝　票

項　　目	会議費
金　　額	97,000 円
内　　容	令和7年度 世界情勢からわがまちの未来をつくる ～トップマネジャーの方のために～　の旅費
目　　的	日本を取り巻く世界情勢をしっかりと見極め、変化に負けない特色あるまちづくりをしていくために、各分野でご活躍の先生方をお招きしての研修会であり、国際情勢や地域のインバウンド政策、文化振興・発信などについて学び、グローバル化を戦略的に自治体施策に取り込み、地域の活性化に繋げていく方策について考えて、今後の議員に役立てる為。
支　出　先	佐野和也ほか3人
支払年月日	令和7　年　　6　月　　30　日

その他特記事項　24,250円×4人＝97,000円

参加者　　佐野和也・辻村岳瑠・中野健太郎・平下尚己

研修先　滋賀県大津市唐崎　全国市町村国際文化研修所
研修名　令和7年度世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネージャーの方のために～

－　領収書等貼付欄　－

別紙のとおり

旅費計算書(政務活動費)

明和

(佐野和也・辻村・中野・平下議員)

●1日目:令和7年7月7日(月)　閑散期

【研修】全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市唐崎2-13-1)

※世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネジャーの方のために～

富士宮 ―JR身延線 10.7km― 富士 ―バス― 新富士 ―JR東海道新幹線 367.4km― 京都 ―JR 14.0km― 唐崎

(11.7km)

バス	190

特 閑散期	4,510

唐崎 ……徒歩…… 全国市町村国際文化研修所 ※研修所宿泊

JR運賃営業キロ	
392.1	km
6,600	円

●2日目:令和7年7月8日(火)　閑散期

【研修】全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市唐崎2-13-1)

※世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネジャーの方のために～

全国市町村国際文化研修所 ……徒歩…… 唐崎 ―JR 14.0km― 京都 ―JR東海道新幹線 367.4km― 新富士 ―バス― 富士

特 閑散期	4,510

バス	190

富士 ―JR身延線 10.7km― 富士宮

(11.7km)

JR運賃営業キロ	
392.1	km
6,600	円

鉄道賃	JR	13,200 円	運賃 A	22,600 円	×	1 人	=	22,600 円
	私鉄	円	日当	1,650 円×	1	日×	1 人=	1,650 円
急料金	通常	円						
	閑散	9,020 円						
	繁忙	円						
航空運賃	料金	円	宿泊料	16,500 円×	0	夜×	1 人=	0 円
船賃		円						
車賃(バス)		380 円						
1人往復運賃合計 A		22,600 円	旅費合計	24,250 円/人	×	4 人=	97,000	円

受講料に食費・研修生活動費含む(最終日の昼食は研修経費に含まれていない)

研修報告書

会派名	明和

研　修 年　月　日	令和７年７月７日（月）～令和７年７月８日（火）
研　修　名	令和７年度 世界情勢からわがまちの未来をつくる ～トップマネジャーの方のために～
参　加　者	佐野和也　平下尚己　中野健太郎　辻村岳瑠
研修内容 （概要、特色、効果、課題等）	激変する世界情勢と日本の立場 講演では、アメリカのトランプ大統領の登場が単なる政権交代ではなく、アメリカ社会の構造的な大転換を示すものであると説明されました。たとえトランプ氏が退いたとしても、分断と自国優先の風潮は元に戻らないと指摘されました。 こうした大国間の競争が激化する中で、日本は従来の同盟重視だけでなく、「日本とは何か」という根本的な価値観を持つことが重要だと強調されました。 講演の最後には、日本の縄文土器が紹介されました。縄文文化は、1万年以上にわたり人と自然が調和して共生してきた日本人独特の価値観を体現しています。 「日本人にしかできないことを世界に打ち出すことが、激変する世界の中でも普遍的価値になりうるのではないか」という問いかけであったと感じ、強い印象を与えました。 大国の間を上手に渡りながらも、自らの「軸」を持つことが外交の本質であり、その軸の一つが日本の歴史と文化に根ざす「縄文的なる美しい精神」にあるのではないかという視点は、今後の日本の在り方を考える上で重要な示唆となりました。 世界が激変する中で、地方政治においても「日本とは何か」という問いに地域から答えていくことが求められています。 地方議員は、地域住民の暮らしを守るだけでなく、日本全体の価値や魅力を体現し、発信する役割を担っています。地域の歴史や文化資源を大切にし、それを未来へ伝える取り組みは、まさに日本らしさの根幹を支える行為だと言えます。多様な価値観を受け入れながらも、地域の「らしさ」を守り育む姿勢は、激変する世界情勢の中でも地域が持続的に発展する鍵となります。講演を通じ、改めて「地方から日本の価値を発信する」という視点の重要性を認識しました。 これからの地方議員には、地域に根ざした歴史や文化を尊重し、それを住民と共有しながら、地域の魅力を国内外に伝える役割が強く求めら

	れます。 今後も地域の伝統や文化に学び、それを未来に繋げる政策を推進していく所存です。

研修報告書

会派名	明　和

研　修 年　月　日	令和７年７月７日～７月８日
研　修　名	世界情勢からわがまちの未来をつくる
参　加　者	辻村岳瑠・佐野和也・中野健太郎・平下尚己
研修内容 （概要、特色、効果、課題等）	インバウンド需要を活用した持続可能な観光地域づくり Tourismの定義（世界観光機関）は、「観光・レジャー・ビジネス・その他の目的で連続して一年を超えない期間、通常の生活環境から離れた場所を旅行したり、そこで滞在したりすること」となっている。欧米豪の観光客は一週間とか歩いて観光するのが主流のようで、目的も歴史や構造物の仕様やアクティビティなどが多い為、ガイドブックもそれに合わせた内容に変えたほうが、より興味を持ってもらえ滞在型の観光客誘致にプラスとなるのではと思う。逆に日本人観光客は、休日型の観光が多く、目的も写真を見て選び、同じような写真を撮るなど確認行動的な観光で、外国人観光客が多くて混雑する観光地を避けてほかの観光地に行くなど欧米豪の観光とは違う為、自分たちの地域の観光をよく理解し観光資源に合った施策をとることが重要だと感じた。

研修報告書

会派名	明　和

研　修 年　月　日	令和７年７月８日
研　修　名	「世界情勢からわがまちの未来をつくる」
参　加　者	佐野和也、辻村岳瑠、平下尚己、中野健太郎
研修内容 （概要、特色、効果、課題等）	「日本の食を世界へ～地方創生への道筋～」と題した講義では、日本食品海外プロモーションセンター（JFOODO）執行役の北川浩伸氏が講師を務めた。 JFOODO は日本産の農林水産物・食品のブランディングのため平成29 年、日本貿易振興機構（JETRO）内に創設された組織。JETRO が日本のエクスポーターと海外のインポーターをつなぐ BtoB の部分を担っているのに対して、JFOODO は「消費者に対するブランディング」つまり BtoC を主な役割としている。 北川氏は日本の農林水産物や食品の状況を解説した上で、日本の食の価値や海外消費者に向けた日本の食への理解と消費への拡大、輸出とインバウンドの関係、アニメとのコラボの意味、求められる海外プロモーション戦略、地方におけるグローバル人材の育成の手法などを説いた。 令和５年は、訪日客の旅行消費額が 5 兆 2923 億円と過去最高を記録し、今後はさらに増えることが期待されている。日本の食の魅力を知ってもらうためには、訪日外国人への PR もポイント。北川氏は、訪日外国人に来日理由を尋ねたところ回答一位は「日本食を食べること」だと強調。「訪日外国人が日本国内で日本食や日本産品を消費すれば、食ビジネス関係者の収益がアップする。すると産地が元気になる。海外からの観光客に「おいしい」と言ってもらったら、生産者の方々も意欲が湧く。それによって生産効率が上がり、良質な農林水産物をたくさん生産できるようになれば、輸出がさらに増加する。そして、食ビジネスが「儲かる産業」になれば、第一次産業や食関連の職種に優秀な人材が集まるようになる。こんな循環サイクルをつくってきたい」と展望を語った。 また、アニメは海外プロモーションを行う上で強力な武器になるとして、具体例に沼津市を舞台にした作品「ラブライブ！サンシャイン!!」を挙げた。アニメに登場する食のシーンを通じて、日本の食材やレシピへの関心が高まり、実際に日本食を体験することにつながるなど、地方にこうしたファンの「聖地」が生まれるという。 一次産業の活性化については、インバウンドの力も借りながら、日本国内全体で「食」で稼ぐ力を高めて、生産者の所得を向上させ、農業従事者を増やすというスキームを作りながら、同時に海外マーケットの拡大も狙っていく戦略の意味を強調した。具体例として、米国ニューヨークではおにぎり 1 個 10 ドル、台湾台北でイチゴ 1

	パック 5,000 円で販売され、評判が高いことを指摘し、「自分たちの感覚で価格を考えるのはやめるべき。日本の食はずっと評価されている」と伝えた。 地方でのグローバル人材の育成では、個人事業主や規模のあまり大きくない企業が多い産業なだけに、海外に発信するのは難しさもあるとした。そのため、産・学・官の連携が重要で、「挑戦しようとする人たちの心が折れない仕組みを地域や行政で考えて支援してほしい」、語学力よりも食に対する誇りや柔軟性や食への知識を意識した取り組みに振るべきだとした。 富士宮市は世界遺産富士山を目的に訪れる観光客が多く、富士宮やきそばや日本酒を堪能する外国人観光客も数多くいる。一方で、受け入れる側の意識はまだ潜在能力を秘めており、今後はより戦略的に富士宮ファンの海外観光客を獲得する必要があると感じた。

研修報告書

会派名	明和

研　修 年　月　日	令和７年７月７日（月）～令和７年７月８日（火）
研　修　名	令和７年度 世界情勢からわがまちの未来をつくる ～トップマネジャーの方のために～
参　加　者	佐野和也、辻村岳瑠、中野健太郎、平下尚己
研修内容 （概要、特色、効果、課題等）	概要 講義 ・国際平和文化都市の実現に向けて 広島市長　松井一實氏 ２０１１年４月に広島市長に就任し、現在４期目。２０２４年６月から全国市長会会長を務めておられる松井市長から、広島市基本構想の第６次広島市基本計画（２０２０年～２０３０年）について国際平和文化都市の実現に向けて様々な角度から講義頂いた。 特色：持続可能なまちづくりを目指し、おおむね６０Ｋｍ圏内の３３市町を広島広域都市圏とし、ローカル経済圏の構築、広域的公共交通網等の充実・強化、施策の共同実施や行政資源の相互利用で地方分権と地方創生を目指している。 地域コミュニティの活性化に対して、ひろしまＬＭＯを設立し地域に関わるあらゆる主体が一緒になり、地域の実情に応じた諸課題を解決することができる持続可能な地域コミュニティの実現を基本理念としている。 まちづくりの具体的施策 「世界に輝く平和のまち」 平和文化の振興： ・戦争をすべきではない（戦争をしないと宣言する） ・核兵器はなくすべきである（核兵器は絶対悪であり、廃絶を目指す） →市民社会の支持を得て理想を追求している。 平和文化月間： ・毎年１１月を平和文化月間と定め、この期間に平和への思いの共有につながる取組を集中的に実施している →市民社会に平和文化を根付かせる。 平和宣言： ・被爆から２年後の昭和２２年（1947 年）８月６日に開催された第１回平和祭において、当時の浜井市長により、初めて平和宣言が読み上げられた。 ヒロシマの心：

	・安らかに眠って下さい　過ちは　繰返しませぬから 被爆者の思い「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」 　「ぜひ、心で唱えてください」とのことでした 若い世代に訴えかけるため修学旅行誘致を積極的に推進 被爆８０周年の取組： ・「ヒロシマの心」を次世代に継承（つなぐ） ・市民主体の平和文化の取組を、世代を超えて共有 ・世界中の都市と連携の輪を広げる 中央図書館等の移転整備 ・公共施設の合理化 ・将来を見据え、駅近くへ 感想：首長自ら、広島市の現在、そして目指していることを、具体的にわかりやすく熱く語る講義でした。 　「仕事は楽しく、遊びは真剣に」極めた先は繋がっている 非常に有意義な研修でした。

視　察　申　請　書

予算項目	調　査　旅　費

起　　案	2025年5月30日	決　　裁	2025年5月30日

	所　　属	氏　　名	備　　考
1	明　　和	佐野　和也	会　派　代　表　者
2		諏訪部　孝敏	
3		辻村　岳瑠	
4		赤池　弘源	
5		芦澤　秀典	
6		中野　健太郎	
7		平下　尚己	会　派　会　計　者

視察市町村	視　察　先	目　　的
青森県平川市	株式会社津軽バイオマスエナジー	地域資源の活用と地産地消エネルギー、地域経済と雇用創出の貢献についての視察のため
青森県弘前市	弘前市役所	市民参加型まちづくり１％システムについての視察のため
青森県黒石市	青森県産業技術センター農林総合研究所	スマート農業についての視察のため
北海道函館市	函館市縄文文化交流センター	文化遺産の保存と教育・体験型学習への活用についての視察のため

宿　泊　地	出発年月日	帰省年月日
青森県弘前市駅前1-1-1 東横イン弘前駅前 北海道函館市大手町22-7 東横イン函館駅前朝市	2025年　7　月　16　日 ／	2025年　7　月　18　日 ／

政　務　活　動　費　用

支　出　伝　票

項　　目	調査旅費
金　　額	697,550 円
内　　容	弘前市、函館市行政視察のための旅費
目　　的	青森県平川市「株式会社津軽バイオマスエナジー」 ：地域資源の活用と地産地消エネルギー、地域経済と雇用創出の貢献についての視察のため 青森県弘前市 ：市民参加型まちづくり1%システムについての視察のため 青森県黒石市「青森県産業技術センター農林総合研究所」 ：スマート農業についての視察のため 北海道函館市「函館市縄文文化交流センター」 ：文化遺産の保存と教育・体験型学習への活用についての視察のため
支　出　先	佐野和也ほか 6人
支払年月日	令和7 年　　6 月　　16 日
その他特記事項 佐野和也、諏訪部孝敏、辻村岳瑠、赤池弘源、芦澤秀典、中野健太郎、平下尚己の7人	

－ 領収書等貼付欄 －

別紙のとおり

旅費計算書（政務活動費）

明和
（佐野和也・諏訪部・辻村・
赤池・芦澤・中野・平下議員）

●１日目：令和７年７月16日（水）

【視察】 ㈱津軽バイオマスエナジー(青森県平川市中佐渡下石田35-1)

富士宮 —JR身延線 10.7km（11.7km）— 富士 —バス— 新富士 —JR新幹線 146.2km— 東京 —JR新幹線 713.7km— 新青森 —JR 33.5km— 弘前

バス	190

特 閑散期	2,860

特	7,330

弘前 —弘南鉄道— 柏農高校前 —徒歩— 津軽バイオマスエナジー —徒歩— 柏農高校前 —弘南鉄道— 弘前 ※弘前市内泊

※視察 14時～

私鉄	400

私鉄	400

JR運賃営業キロ	
33.5	Km
590	円

新青森－弘前 乗車券分
富士宮－函館 往復切符で購入

●２日目：令和７年７月17日（木）

【視察】 弘前市役所(青森県弘前市上白銀町1-1)、農林総合研究所(青森県黒石市田中82-9)

ホテル —徒歩— 弘前駅前 —バス— 市役所前 —徒歩— 弘前市役所 —徒歩— 市役所前 —バス— 弘前駅前

※視察 9時半～

バス	230

バス	230

弘前駅前 —バス— 浪岡 —バス— 目内沢入口 —徒歩— 農林総合研究所 —徒歩— 目内沢入口 —バス— 新青森駅南口/新青森

※視察 13時半～

バス	500

バス	430

バス	1,030

新青森 —JR新幹線 148.8km— 新函館北斗 —JR 17.9km— 函館 ※函館市内泊

特	4,530

JR運賃営業キロ	
1,037.3	Km
12,370	円

往復割引 富士宮－函館
13,750円×0.9≒12,370円

●３日目：令和７年７月18日（金）

【視察】 函館市縄文文化交流センター(函館市臼尻町551-1)

ホテル —徒歩— 函館駅前 —バス— 南茅部支所前 —バス— 垣ノ島遺跡下 —徒歩— 函館市縄文文化交流センター —徒歩— 垣ノ島遺跡下

※視察 9時半～

バス	1,400

バス	230

垣ノ島遺跡下 —バス— 南茅部支所前 —バス— 函館駅前/函館 —JR 17.9km— 新函館北斗 —JR新幹線 862.5km— 東京 —JR新幹線 146.2km— 新富士

バス	230

バス	1,400

特 繁忙期	11,530

特 繁忙期	3,260

新富士 —バス— 富士 —JR身延線 10.7km（11.7km）— 富士宮

バス	190

JR運賃営業キロ	
1,037.3	Km
12,370	円

往復割引 富士宮－函館
13,750円×0.9≒12,370円

鉄道賃	ＪＲ	25,330	円	運賃 Ａ	61,700	円	×	1	人＝ 61,700 円
	私鉄	800	円	日当	1,650	円×	3	日×	1 人＝ 4,950 円
特急料金	通常	11,860	円						
	閑散	2,860	円						
	繁忙	14,790	円						
航空運賃	料金		円	宿泊料	16,500	円×	2	夜×	1 人＝ 33,000 円
船賃			円						
車賃（バス）		6,060	円						
１人往復運賃合計 Ａ		61,700	円	旅費合計	99,650	円/人	×	7	人 ＝ 697,550 円

視察報告書

会派名	明　和

視　察 年　月　日	令和7年7月16日
視　察　先	株式会社津軽バイオマスエナジー 青森県平川市中佐渡下石田35－1
参　加　者	佐野和也、諏訪部孝敏、辻村岳瑠、芦澤秀典、赤池弘源、平下尚己、中野健太郎
視察内容 （概要、特色、効果、課題等）	津軽バイオマスエネルギーは、青森県を中心とする未利用間伐材や林地残材、同県の特産品であるりんごの剪定枝を原料とした木質バイオマス発電事業を展開する企業である。 本視察では、地域資源を活用した再生可能エネルギー事業の取り組みについて学び、富士宮市における循環型社会形成や地産地消エネルギー施策の参考とすることを目的とした。現地では同社取締役の奈良進氏からヒアリングし、施設の調査・見学を行った。 同社の主な特徴は以下の通り。 発電出力：約6,560kW(一般家庭14,000軒分) 燃料調達：地元森林伐採業者、農家等から供給される木材チップ 売電先：FIT（固定価格買取制度）を活用した東北電力への売電。ただし、3分の2程度は買い戻し、市内公共施設(給食センター等)、13小中学校に東北電力より5%ほど安く販売している 地域貢献：地元林業の活性化、雇用創出、林地の整備促進 余熱利用：施設内暖房や高糖度トマトの生産、燃料乾燥庫の熱源 奈良氏から、地域の森林資源をエネルギーとして循環させることで「地産地消」の再エネモデルを築いているという説明があった。燃料調達から発電までを地域で完結させることで、経済効果と環境保全の両立を実現している点が印象的であった。雇用については、森林整備事業者8社25人の雇用が生まれ、取り組み全体で75人の雇用を創出したという。 取り組みのきっかけは、自治体が企業誘致に取り組んでも、気候、都市機能、交通の便などが原因でうまく進まないケースが多かったという。そこで、首都圏で産業廃棄物事業を営む同社親会社が名乗りを上げた。こうした経緯があったため、稼働開始までの間は、固定資産税の減免を平川市が5年間(他自治体は基本3年間)、総務省のふるさと財団事業を活用、融資の利息相当分を同市が負担するなどのバックアップがあった。 施設の調査では、発電プラントの構造や燃料供給ルート、燃焼炉、タービン、排熱処理設備等を実際に見学。徹底した安全管理と省エネ設計に感銘を受けた。特に、自動制御による運転管理や燃料の品質維持の工夫は、安定稼働の要として重要なポイントであった。 富士宮市は森林資源が豊富であり、同様の木質バイオマス発電や熱利用施設の可能性がある。そのため、市内の間伐材や残材の有効活用の道を探るアイデア、地域内エネルギー循環モデルの構築、ゼ

	ロカーボンシティへの布石としての位置付けなどについて参考になった。 一方、同社の取り組みは利益率の高い国有林を大半が占める地域であること、競合先がいないなどのメリットがあり、直接富士宮市において導入することが可能ではない点も考慮しなければならない。単なる発電事業という観点ではなく、地域資源の価値化、林業の再活性化、地元雇用創出など、多面的な地域貢献を果たしている姿勢において、富士宮市でも資源・人材・技術を組み合わせた再生可能エネルギー活用の可能性を今後さらに検討すべきと感じた。

視察報告書

会派名	明　和

視　察 年　月　日	令和７年　７月　１７日
視　察　先	青森県弘前市
参　加　者	諏訪部孝敏　芦澤秀典　赤池弘源　平下尚己 佐野和也　　辻村岳瑠　　中野健太郎
視察内容 （概要、特色、効果、課題等）	平成２２年に前市長の葛西市長が選挙マニフェストとして挙げた「市民参加型１％システムの導入」を、弘前市総合計画後期基本計画の中の（市民と行政の協議による地域づくりの推進）の一つとして翌年の平成２３年に制度が創設された。内容は公募型補助金で「市民」が主体となって行うまちづくり活動を行政が補助金で支援する事であり、個人市民税の１％相当額を財源とし市民の皆さんが自分たちで考え、行動するまちづくり活動・地域づくり活動の支援である。令和７年度の予算は２３００万円で市の「まちづくり振興基金」から充当している。応募には構成員が５人以上・主に市内が活動拠点・組織の運営に関する規則（規約・会則等）・継続的かつ計画的に事業を行うことが可能・市内に事務所又は事務局と条件があるが、行政のサポートが充実しており、申請ガイドブックや企業への協賛金の集め方や依頼文の作り方まで幅広く教えてくれる。公開プレゼンテーションのため誰もが傍聴でき、公開審査会では改善案やアドバイスも聞けるなど、この制度を市民に沢山利用してもらいたいという気持ちが伝わ ってくる。年三回の募集には合計で50件ほどの申請があるが、補助金の上限が経費の９０％以内で５０万円までそして採択率が９０％を超えていることは市民からすれば魅力的で活用しない手はない。高校生や大学生も利用しているということだが、行政やまちづくりに若い人が興味を持ってくれることは今後の市政や街の発展に大いに期待できる。行政任せのまちづくりではなく、自分たちの住みたいと思うような街を自らの手で創ることで地元愛の成長に繋がると感じた。是非とも富士宮市もこのような政策を実施するべきだとと思う。

視察報告書

会派名	明和

視　察 年　月　日	令和7年7月17日
視　察　先	青森県産業技術センター農林総合研究所
参　加　者	諏訪部孝敏　辻村岳瑠　佐野和也　平下尚己　赤池弘源 中野健太郎　芦澤秀典
視察内容 （背景と目的、概要、特色、期待される効果、課題と考察、富士宮市への応用可能性、まとめと提言）	〈背景と目的〉 近年、スマート農業技術は急速に発展しており、特に中山間地域や小規模農家への導入可能性が注目されている。富士宮市でも、地域資源の有効活用と担い手不足への対応が喫緊の課題であり、ICT・ロボット技術を活用した農業の高度化が求められている。そうした観点から、青森県産業技術センター農業総合研究所の先進事例を調査すべく視察を行った。 〈概要〉 視察で特に印象深かったのは、水稲「青天の霹靂」における衛星画像を活用した生産指導用ウェブアプリの導入事例である。気象・土壌情報との連携により、遠隔での圃場管理や作況判断を可能とし、富士宮市においてもブランド農産品の品質向上や支援体制整備に参考となる取り組みであった。 〈技術の特色〉 このシステムは、衛星画像と生育指標により圃場の異常箇所や成長差を可視化し、農業者がリアルタイムに対応できる即応性を備えている。さらに、地理・気候条件に即した栽培指導が可能な地域密着型支援体制や、複数圃場を一元管理する情報基盤の整備も行われており、農業経営の効率化に貢献している。 〈期待される効果〉 衛星データを活用した判断支援は、適期施肥や水管理の精度向上をもたらし、品質安定化と生産性向上に寄与する。また、若手農業者や新規就農者との技術格差を縮める役割を果たし、オンラインによる営農支援の実現は支援体制の効率化にもつながる。 〈課題と考察〉 一方で、導入には一定の初期費用や衛星画像取得コストが発生し、特に小規模経営体にとっては財政的な支援が不可欠である。通信インフラ整備の必要性や、水稲以外への技術応用に向けた研究開発も課題として浮上している。段階的な導入モデルや支援制度との連携が求められる。

	〈富士宮市への応用可能性〉 視察の成果は、富士宮市の農業振興にも多くの示唆を与えるものだった。地域ブランド米の品質向上支援、富士山麓の地形条件を踏まえた栽培指導体制の整備、担い手支援のオンライン化、さらには地域に適した衛星画像プラットフォームの共同開発など、多方面での展開が期待される。 〈まとめと提言〉 本視察は、富士宮市がスマート農業へと一歩踏み出すための重要な契機となった。衛星画像を活用したウェブアプリは、意思決定支援・遠隔支援・技術格差の是正といった観点で高い有用性を示しており、地域特性に合わせた応用可能性も高い。今後は、試行モデル事業の立ち上げや技術継承の仕組みづくりを通じて、持続可能で魅力ある農業の構築を進めていくべきである。

視察報告書

会派名	明和

視　察 年　月　日	令和7年7月18日
視　察　先	函館市縄文文化交流センター
参　加　者	佐野和也　諏訪部孝敏　芦澤秀典　赤池弘源　平下尚己 中野健太郎　辻村岳瑠
視察内容 （概要、特色、効果、課題等）	本視察は、「エコミュージアム」（地域全体が屋根のない博物館）という考えに基づき、函館市がどのように縄文文明を活用し、地域交流やツーリズムを推進しコミュニティーの活性化を図っているかを学ぶことを目的とした。 函館市は、縄文文明の遺跡や国宝に指定された中空土偶など、豊かな縄文の遺産を有している。また、函館市縄文文化交流センターは、こうした縄文の歴史や文化を地域住民や来訪者と共有し、交流を生み出す拠点となっている。 交流センターに「交流」入れた意味 「交流」という言葉には、単に展示を行うだけでなく、縄文の精神性や地域のつながりを現代に活かし、人々の交流・学びを促進する意図が込められている。縄文文明は、集落同士のつながりや協力、自然との共生が重要視されていた。交流センターは、こうした縄文的な価値観を現代に伝え、地域コミュニティーの再構築や観光振興にも寄与している。 視察の中で、国宝である中空土偶についての説明が印象的でした。この土偶は、故意に壊されることを前提に制作されていた「土偶の故意破損」という特徴があります。この「壊すことを前提に作る」という発想に、当時の縄文人の縄文的な精神性、物を大切にしつつも、自然や死を循環そして再生を重視する日本人の独自の価値観を感じ、大変興味深く思いました。この「壊すことを前提に物を作る」という発想から、外国人から見ると「壊すことで役割を終える」という考え方は、日本文化の禅に通じていると感じるそうで

	「今」を大切にする心の在り方を考えさせられる非常に興味深い内容でありました。 今度の活用。 函館市の取組は、地域資源を活かしたコミュニティーベースのツーリズムや学びの場づくり、地域活性化の好事例である。今後はエコミュージアムの理念を参考に、他地域でも歴史・文化資源を使った交流と観光推進の施策を検討したい。

支　出　伝　票

項　目	その他の経費
金　額	10,660 円
内　容	弘前市・函館市視察の際のお土産代
目　的	視察先へのお土産品として ・株式会社津軽バイオマスエナジー ・弘前市議会 ・青森県産業技術センター農林総合研究所 ・函館市縄文文化交流センター
支　出　先	合資会社　藤太郎本店
支払年月日	令和7　年　　7　月　　15　日
その他特記事項 2665円×4ヶ所＝10,660円	

－　領収書等貼付欄　－

領　収　証

R7 年 7 月 15 日

富士宮市議会
会派明和　様

収入印紙

金額	¥ 10,660

上記金額正に領収いたしました。

内訳	菓子代(軽減税率対象)として (税率8%) 税込み ¥ 10,660 内消費税額等 ¥ 790

合資会社 藤[redacted]

登録番号 T108[redacted]

本店 ☎ 0544-26-4118
静岡県富士宮市大宮町8-3

城北店☎ 0544-26-0811 富士宮市城北町452
西駅前店☎ 0544-26-3284 富士宮市西町26-15

扱者 [redacted]

視　察　申　請　書

予算項目	調　査　旅　費

起　案	2025 年 12 月 15 日	決　裁	2025 年 12 月 15 日

	所　属	氏　名	備　考
1	明和	佐野和也	会派代表者
2		諏訪部孝敏	
3		辻村岳瑠	
4		芦澤秀典	
5		平下尚己	会派会計者
6		中野健太郎	
7		赤池弘源	

視察市町村	視　察　先	目　的
土浦市	土浦市役所	部活動の地域移行の取り組みについて

宿　泊　地	出発年月日	帰省年月日
	２０２６年 １ 月１４日	２０２６年 １ 月１４日

政　務　活　動　費　用

支　出　伝　票

項　　目	調査旅費
金　　額	95,340 円
内　　容	茨城県土浦市行政視察のための旅費
目　　的	茨城県土浦市役所 :部活動の地域移行についての視察のため
支　出　先	佐野和也ほか 5人
支払年月日	令和8 年　1 月　13 日
その他特記事項 佐野和也、諏訪部孝敏、赤池弘源、芦澤秀典、中野健太郎、平下尚己の6人 辻村岳瑠議員は、体調不良のため欠席	

― 領収書等貼付欄 ―

別紙のとおり

旅費計算書(政務活動費)

明和
(佐野和也・諏訪部・辻村・
赤池・芦澤・中野・平下議員)

● 1 日 目 : 令和8年1月14日 (水)

【視察】 土浦市役所(茨城県土浦市大和町9番1号)

富士宮 —JR身延線 10.7km (11.7km)— 富士 —バス— 新富士 —JR新幹線 146.2km— 東京 —JR 69.6km— 土浦 —徒歩— 土浦市役所

バス	190

特 閑散期	2,860

土浦市役所 —徒歩— 土浦 —JR 69.6km— 東京 —JR新幹線 146.2km— 新富士 —バス— 富士 —JR身延線 10.7km (11.7km)— 富士宮

※視察 13時30分～

特 閑散期	2,860

バス	190

JR運賃営業キロ(片道)	
226.5	Km
4,070	円

鉄道賃	JR	8,140 円		運賃 A	14,240	円	×	1	人＝	14,240	円
	私鉄	円									
特急料金	通常	円		日当	1,650	円×	1	日×	1	人＝	1,650	円
	閑散	5,720 円									
	繁忙	円									
航空運賃	料金	円		宿泊料	16,500	円×	0	夜×	1	人＝	0	円
船賃		円									
車賃(バス)		380 円									
1人往復運賃合計 A		14,240 円		旅費合計	15,890	円/人	×	6	人	＝	95,340	円

辻村岳瑠議員、体調不良のため欠席。旅費111,230円から95,340円に減額。

視察報告書

会派名	明　和

視　察 年　月　日	令和　８年　１月１４日　水曜日
視　察　先	茨城県土浦市役所
参　加　者	佐野和也、諏訪部孝敏、芦澤秀典、 赤池弘源、中野健太郎、平下尚己
視察内容 （概要、特色、効果、課題等）	部活動の地域移行の取組について 概要、特色： 国の方針を踏まえた実証的・段階的な地域移行として、土浦市教育委員会指導課小泉雄一指導主事他３名から説明を受けた。 土浦市では、従来学校が担ってきた部活動を、地域の人材や団体が主体となって運営する「地域クラブ活動」へ段階的に移行している。主に休日の部活動を中心に、複数校合同での活動や、競技ごとの地域クラブ設置を進めており、教員の負担軽減と子どもたちの継続的なスポーツ・文化活動の機会確保を両立させる取組となっている。 また、指導者については兼業職員や地域人材の活用を基本とし、一定の研修やルール整備を行うことで、指導の質と安全性の確保に努めている。 成果と評価： 教員の休日指導負担が軽減され、働き方改革の推進につながっている。 複数校合同による活動により、競技人口が少ない種目でも活動継続が可能となっている。 専門性のある地域指導者が関わることで、競技力や活動の質の向上が期待されている。 課題と今後の対応： 一方で、以下のような課題も確認された。 保護者負担（令和９年度からの参加費・移動手段等）

	への配慮 土浦市では、実証事業を通じて課題を整理し、制度の改善を重ねながら段階的な拡充を図っている。 子どもたちの満足度は 83％で大きな理由は機会の数、時間の制限。 保護者の満足度は 75％で大きな理由は送迎の負担であった。 感想：富士宮市においても、少子化や教職員の負担軽減という課題は共通しており、土浦市の取組は大いに参考となる。 休日部活動から段階的に移行する手法 地域人材を生かした指導体制づくり 複数校連携による活動の継続 といった点は、地域特性を踏まえつつ導入可能性を検討すべきである。 まとめ： 部活動の地域移行は、単なる運営主体の変更ではなく、学校・地域・行政が連携して子どもたちの成長を支える新たな仕組みづくりである。土浦市の先行事例を参考に、富士宮市においても関係者との丁寧な議論を重ねながら、持続可能な形での導入を検討していく必要がある。

視　察　申　請　書

予算項目	調　査　旅　費

起　案	2025　年　12　月　15　日	決　裁	2025　年　12　月　15　日

	所　属	氏　名	備　考
1	明和	佐野和也	会派代表者
2		諏訪部孝敏	
3		辻村岳瑠	
4		芦澤秀典	
5		平下尚己	会派会計者
6		中野健太郎	
7		赤池弘源	

視察市町村	視　察　先	目　的
つくば市	防災科学技術研究所	激甚化する豪雨災害について
常総市	常総市役所	公共施設マネジメント全般について

宿　泊　地	出発年月日	帰省年月日
	２０２６　年　１　月１５日	２０２６年　１　月１５日

政　務　活　動　費　用

支　出　伝　票

項　　目	調査旅費
金　　額	100,740 円
内　　容	茨城県つくば市・常総市行政視察のための旅費
目　　的	茨城県つくば市「防災科学技術研究所」 ：豪雨災害についての視察のため 茨城県常総市役所 ：公共施設マネジメントについての視察のため
支　出　先	佐野和也ほか　5人
支払年月日	令和8　年　　1　月　　13　日
その他特記事項 佐野和也、諏訪部孝敏、赤池弘源、芦澤秀典、中野健太郎、平下尚己の6人 辻村岳瑠議員は、体調不良のため欠席	

－　領収書等貼付欄　－

別紙のとおり

旅費計算書（政務活動費）

明和
（佐野和也・諏訪部・辻村・
赤池・芦澤・中野・平下議員）

● 1 日 目 ： 令和8年1月15日（木）

【視察】 防災科学技術研究所つくば本所(茨城県つくば市天王台3-1)、常総市役所(茨城県常総市水海道諏訪町3222番地3)

富士宮 ―JR身延線 10.7km（11.7km）― 富士 ―バス― 新富士 ―JR新幹線 146.2km― 東京 ―JR 2.0km― 秋葉原 ―私鉄― つくば

バス 190　　特 閑散期 2,860　　私鉄 1,210

つくば ―バス― 花畑 ……徒歩…… 防災科学技術研究所 ……徒歩…… 花畑 ―バス― つくば ―私鉄― 守谷

※視察 10時～

バス 200　　バス 200　　私鉄 530

守谷 ―私鉄― 水海道 ……徒歩…… 常総市役所 ……徒歩…… 水海道 ―私鉄― 守谷 ―私鉄― 秋葉原

※視察 15時30分～

私鉄 390　　私鉄 390　　私鉄 840

秋葉原 ―JR 2.0km― 東京 ―JR新幹線 146.2km― 新富士 ―バス― 富士 ―JR身延線 10.7km（11.7km）― 富士宮

特 閑散期 2,860　　バス 190

JR運賃営業キロ(片道)	
158.9	Km
2,640	円

鉄道賃	JR	5,280	円
	私鉄	3,360	円
特急料金	通常		円
	閑散	5,720	円
	繁忙		円
航空運賃	料金		円
船賃			円
車賃（バス）		780	円
1人往復運賃合計 A		15,140	円

運賃 A	15,140	円		×	1	人＝	15,140	円
日当	1,650	円×	1	日×	1	人＝	1,650	円
宿泊料	16,500	円×	0	夜×	1	人＝	0	円
旅費合計	16,790	円/人	×	6	人	＝	100,740	円

辻村岳瑠議員、体調不良のため欠席。旅費117,530円から100,740円に減額。

視察報告書

会派名	明　和

視　察 年　月　日	令和８年１月15日　木曜日
視　察　先	茨城県つくば市　防災科学技術研究所
参　加　者	佐野和也　諏訪部孝敏　芦澤秀典 平下尚己　中野健太郎　赤池弘源
視察内容 （背景と目的、概要、特色、期待される効果、課題と考察、富士宮市への応用可能性、まとめと提言）	防災科学技術研究所「激甚化する豪雨災害について」 〈背景と目的〉 近年、集中豪雨や線状降水帯による水害・土砂災害が激甚化しており、自治体には従来の想定を超えた防災・減災対策が求められている。富士宮市も地形的特性から豪雨災害リスクを抱えていることから、最新の科学的知見を防災施策に生かすため本視察を実施した。 〈概要〉 防災科学技術研究所において、講習、研究施設見学、災害体験および専門研究者による講義を受け、観測網や衛星画像を活用した災害把握、豪雨・土砂災害の最新研究動向について学んだ。これらの取組は、災害に強く、被害を受けてもしなやかに立ち直る「レジリエント（回復力のある）」社会の実現を目指したものである。あわせて、近年の集中豪雨の特徴である線状降水帯について、その発生の仕組みや、長時間にわたり同一地域へ強い雨をもたらす特性、予測の難しさなどについて理解を深めた。 〈技術の特色〉 全国約2,200点の高密度観測網（モウラス）によるリアルタイム監視体制や、大型降雨実験施

	設等による災害再現実験など、科学的データに基づく防災研究が体系的に行われている点が大きな特色である。 〈期待される効果〉 災害発生時の迅速な状況把握や的確な避難判断につながるとともに、科学的根拠に基づく防災施策の立案や、市民への分かりやすい情報提供の充実が期待される。 〈課題と考察〉 線状降水帯をはじめとする豪雨災害の予測には依然として限界があり、技術の高度化だけで被害を防ぐことは困難である。平時からの備えや、住民一人ひとりが状況に応じて行動できる防災意識の醸成が、引き続き重要な課題であると感じた。 〈富士宮市への応用可能性〉 本視察で得られた知見は、ハザードマップの活用や警戒レベルの周知、防災教育の充実など、富士宮市の防災施策を検討するうえでの基礎的な視点として活用することができる。今後は、地域特性を踏まえ、科学的データと市民の行動を結び付けた防災対策の検討に生かしていきたい。 〈まとめと提言〉 激甚化する豪雨災害に備えるためには、科学的知見と地域の実情を結び付けた防災対策が重要である。今後は、市民一人ひとりが行動につなげられる防災体制づくりを進めるべきである。

視察報告書

会派名	明　和

視　察 年　月　日	令和８年１月15日　木曜日
視　察　先	茨城県常総市役所
参　加　者	佐野和也　諏訪部孝敏　芦澤秀典 平下尚己　中野健太郎　赤池弘源
視察内容 （背景と目的、概要、特色、期待される効果、課題と考察、富士宮市への応用可能性、まとめと提言）	公共施設マネジメント全般について 〈背景と目的〉 人口減少・少子高齢化により、公共施設の老朽化や利用率低下が自治体共通の課題となっている。常総市の公共施設マネジメントの取組を学び、富士宮市における公共施設再編の今後の検討に生かすことを目的として本視察を実施した。 〈概要〉 常総市では、人口減少や公共施設の老朽化を背景に、公共施設を将来にわたり持続可能な形で維持するため、公共施設マネジメントを推進している。利用率が低下した施設については、暫定利用（トライアル・サウンディング）を通じて民間事業者と対話し、活用可能性を検証したうえで本格活用へつなげている。また、保育所・幼稚園については、児童数の減少を踏まえ、施設の複合化や機能集約により、施設規模の適正化とサービスの質の維持を両立させている。 〈特色〉 常総市の公共施設マネジメントの特色は、暫定利用や民間提案制度を単なる手法として用いるのではなく、民間や地域との対話を重ねながら段階的に判断を行う点にある。

	また、部局横断による調整体制を構築し、縦割りによる施設利用制限を見直すとともに、戦略会議等を通じて関係部署が情報を共有しながら意思決定を行うことで、公共施設の有効活用を阻害しない仕組みづくりが進められている。このように、制度運用と庁内体制の両面から公共施設マネジメントを進めている点が、常総市の特徴である。 〈期待される効果〉 公共施設の有効活用が進み、利用率の低い施設の再生や地域活性化が期待される。施設の複合化・機能集約により、更新費用や維持管理費の抑制が見込まれる。民間活力の導入により、住民サービスの向上と持続可能な施設運営が図られる。 〈課題と考察〉 公共施設マネジメントの課題は、財源よりも人材と庁内横断体制の確保にある。縦割り行政や老朽化施設の判断には、長期的視点と市民への丁寧な説明が求められる。暫定利用を通じて検証を重ねる姿勢は、結論を急がない有効な手法であると考えられる。 〈富士宮市への応用可能性〉 公共施設を将来世代の負担としないため、計画的なマネジメントの必要性を再認識した。保育所・幼稚園の再編では、複合化や機能集約により質を確保する考え方が参考となる。暫定利用や民間提案制度は、市民理解を得ながら施設活用を進める有効な手法である。

視　察　申　請　書

予算項目	調　査　旅　費

起　案	2025 年 12 月 15 日	決　裁	2025 年 12 月 15 日

	所　属	氏　名	備　考
1	明和	佐野和也	会派代表者
2		諏訪部孝敏	
3		辻村岳瑠	
4		芦澤秀典	
5		平下尚己	会派会計者
6		中野健太郎	
7		赤池弘源	

視察市町村	視　察　先	目　的
東京都足立区	足立区役所	足立区のおいしい給食の取り組みについて

宿　泊　地	出発年月日	帰省年月日
	２０２６ 年 １ 月 16日	２０２６ 年 １ 月 16日

政　務　活　動　費　用

支　出　伝　票

項　目	調査旅費
金　額	86,220 円
内　容	東京都足立区行政視察のための旅費
目　的	東京都足立区役所 :学校給食についての視察のため
支　出　先	佐野和也ほか 5人
支払年月日	令和8 年　1 月　13 日
その他特記事項 佐野和也、諏訪部孝敏、赤池弘源、芦澤秀典、中野健太郎、平下尚己の6人 辻村岳瑠議員は、体調不良のため欠席	

－ 領収書等貼付欄 －

別紙のとおり

旅費計算書(政務活動費)

明和
(佐野和也・諏訪部・辻村・
赤池・芦澤・中野・平下議員)

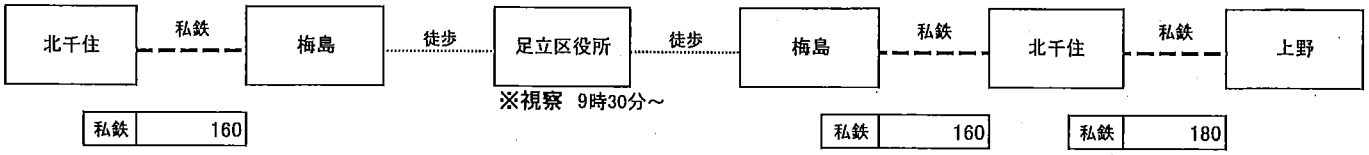
● 1 日 目 : 令和8年1月16日 (金)

【視察】 防災科学技術研究所つくば本所(茨城県つくば市天王台3-1)、常総市役所(茨城県常総市水海道諏訪町3222番地3)



バス	190

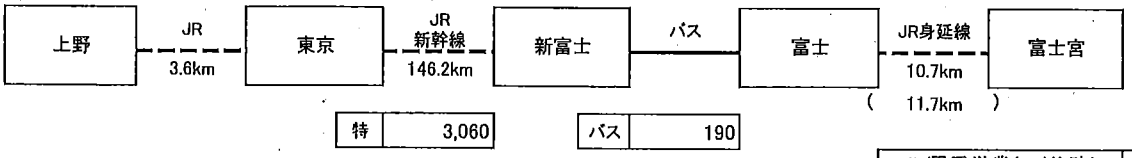
特	3,060



私鉄	160

私鉄	160

私鉄	180



特	3,060

バス	190

JR運賃営業キロ(往路)		JR運賃営業キロ(復路)	
167.9	Km	160.5	Km
3,080	円	2,640	円

鉄道賃	JR	5,720	円	運賃 A	12,720	円	×	1	人＝	12,720	円
	私鉄	500	円	日当	1,650	円×	1	日×	1	人＝	1,650	円
特急料金	通常	6,120	円									
	閑散		円									
	繁忙		円									
航空運賃	料金		円	宿泊料	16,500	円×	0	夜×	1	人＝	0	円
船賃			円									
車賃(バス)		380	円									
1人往復運賃合計 A		12,720	円	旅費合計	14,370	円/人	×	6	人	＝	86,220	円

辻村岳瑠議員、体調不良のため欠席。旅費100,590円から86,220円に減額。

視　察　報　告　書

会派名	明　　和

視　　察 年　月　日	令和８年１月１６日　金曜日
視　察　先	東京都足立区教育委員会　学校運営部
参　加　者	諏訪部孝敏　佐野和也　芦澤秀典 赤池弘源　平下尚己　中野健太郎
視察内容 （概要、特色、効果、課題等）	〈足立区のおいしい給食の取り組みについての視察〉 ○足立区の概要 ２３区の最北東に位置し、江戸四宿として栄えた〝千住〟を有するまち、面積５３．２５平方キロメートル、人口７００，３７０人、世帯数３８２，３５５世帯 ○視察の概要 足立区では、児童・生徒たちの健康な成長と食への関心を高めることを目的に「おいしい給食」を重要な施策として位置づけている。 ○おいしい給食の取り組みの特色・効果 ・食へのこだわり：国産食材の使用や旬の食材を取り入れた献立づくりが行われており、安全性と品質の確保に力を入れている点が印象的であった。 ・調理方法の工夫：手作りを基本とし、だしの取り方にも注意を払うなど素材本来の味を活かした給食づくりが実践されている。 ・栄養士・調理師の連携：栄養士と調理師が密に連携し、「子どもたちにとって本当においしい給食とは何か」を常に意識しなが

	ら改善を重ねている姿勢が伺えた。 ○おいしい給食の取り組みの課題 足立区の「おいしい給食」は高く評価できる一方で、コスト管理や人材確保といった課題がある。 〈所　感〉 足立区の「おいしい給食」は、理念だけでなく現場レベルで着実に実践されている取り組みであると強く感じた。特にコストや大量調理という制約の中にあっても「おいしさ」を決して妥協しない姿勢は素晴らしい。また、給食を通じて子どもたちの健康だけでなく、食への興味や家庭での食生活にも良い影響を与えようとする考え方は、学校給食の本来の役割を改めて認識させるものであった。 足立区の「おいしい給食」は、行政・学校・調理現場が一体となって取り組むことで、高い成果を上げている事例である。本市においても足立区の取り組みを今後の給食施策や食育の充実に大いに生かしていただきたいと今回の視察を通して感じた。

支　出　伝　票

項　目	その他の経費
金　額	11,872 円
内　容	土浦市・つくば市・常総市・足立区役所視察の際のお土産代
目　的	視察先へのお土産品として ・土浦市議会 ・防災科学技術研究所 ・常総市議会 ・足立区議会
支　出　先	合資会社　藤太郎本店
支払年月日	令和8　年　　1　月　　13　日
その他特記事項 2968円×4ヶ所＝11,872円	

－　領収書等貼付欄　－

領　収　証

R8年 1月13日

富士宮市議会会派明和　様

収入印紙

金額	¥ 11,872

上記金額正に領収いたしました。

内訳	菓子代(軽減税率対象)として (税率8%) 税込み ¥ 11,872 内消費税額等 ¥ 879

合資会社 藤太郎本店

登録番号 T1080[redacted]

本店 ☎ 0544-26-[redacted]

静岡県富士宮[redacted]

城北店☎ 0544-26-081[redacted]

西駅前店☎ 0544-26-32[redacted]15

扱者 [redacted]